

2021年度 行橋市立長峽中学校 学力向上プラン

■視点1-②

《 中期目標・指標 》

知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組み、自分の思いや考えを表現する生徒の育成

《 成果指標 》

令和 5年度標準化得点:国語100 数学 100以上

《 短期目標・指標 》

主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現できる生徒の育成

《 成果指標 》

令和 3年度標準化得点:国語 95 数学 97以上

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

〈取組(指標)〉

- ⑤「長峽ノート」の活用についての研修会を実施し、家庭と連携した家庭学習の充実を図る
- ⑤家庭学習の状況や提出の状況など学校・学年・学級通信や懇談会を通じて家庭との連携を密にする。

〈成果(指標)〉

- ◆学習・生活アンケートの項目の回答・宿題以外に自分で考えた勉強に取り組む生徒が5割以上
- ・自分で計画を立てて勉強している生徒が8割以上。

■視点2

【授業づくり】

【基礎・基本の確実な習得】

〈取組(指標)〉

- ⑥毎時間「めあて」「まとめ」「振り返り」を明確にした授業を実施する。
- ③授業において学習した内容を活用して試す、記述の場を設定する。【単元1回以上】

〈成果(指標)〉

- ◆「めあて・まとめ・振り返りのある授業である」【3. 2以上】
- ◆「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする場がある」【3. 2以上】
- 【根拠を明確にして書き、まとめ、解決したことや考えを表現する力の育成】

〈取組(指標)〉

- ②指導方法を工夫しながら「ペアやグループによる話し合い活動」を実施する。
- ④ICT 機器を効果的に活用した「課題解決に向けた対話活動」を実施する。

〈成果(指標)〉

- ◆「ペアやグループで話し合い、自分の考えを発表できる」【3. 2以上】
- ◆授業チェックリスト「コンピューターや情報通信ネットワークを活用した学習」【3. 0以上】

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組(指標)〉

- ⑥各定期考査に全国学力調査問題や高校入試問題から思考力を問う問題を1問は出題する。
- ④ICTを有効活用した「話し合い活動」を取り入れた公開授業を行う。(年1回以上:全員)
- ⑦小中合同の研修会の実施(年3回)
- ⑦小中連携委員会の開催(年6回)

〈成果(指標)〉

- ◆出題した思考力を問う問題の正答率が6割を超える。
- ◆アンケートにおける研修満足度を3.5以上にする。

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉

- ⑤長峽ノート活用した家庭学習の習慣の定着を図る。
- ①長峽タイムで「読み」「書き」「計算」等の基礎基本の定着。毎週まとめテストを行い、不合格者には補充学習・再テストを実施

〈成果(指標)〉

- ◆長峽ノートの提出を9割以上にする。家庭学習を1時間以上の生徒が7割以上、30分に未達の生徒を1割以下
- ◆長峽タイムでの毎週のテストの合格者8割以上

■視点1-①

全国学力・学習状況調査及び生徒による授業評価から見た「課題」

要因(授業づくりやその他学校の学力向上の取組)

| 標準化得点 | 国語 | | 数学 | | ・国語では「考えをまとめること・他者に説明すること」が課題 ・数学では「数学的に説明すること・表現すること」が課題 ・学力中低位層(C、D層)の割合について、国語では+4.7、数学では、+5.6であった。 |
|-------|---|------|----|------|--|
| | R1 | R2 | R1 | R2 | |
| | 100 | 87.1 | 99 | 72.8 | |
| 質問紙調査 | ・「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた」(全国比-30.1) ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」(全国比-14.4) ・授業チェックリスト「コンピューターや情報通信ネットワークを活用した学習がなされている」(評定:2.6) | | | | |

- ①基礎・基本が定着していない生徒に対する補充的な指導が不十分
- ②問題解決的な学習や自分の考えを発表する機会や互いの考えを出し合う活動を取り入れた授業の不足
- ③授業において「書く活動」「表現する・対話する活動」の不足
- ④各教科の指導法の工夫やICT機器の効果的な活用法の理解が不十分
- ⑤家庭学習における習得方法の工夫が不十分
- ⑥学習指導の目標と内容が不明確
- ⑦中学校区で子どもを育む意識の不足